

『いわての川づくり研究会』を開催！

河川課

平成20年10月8日から9日の2日間にわたり、多自然川づくりに関する“現場講習会”、“事例発表会”および“講演会”の3部構成で『いわての川づくり研究会』を開催しました。

今回の研究会は、多自然川づくりの第一人者であり、「多自然川づくり研究会」でご活躍されている独立行政法人土木研究所自然共生研究センターの菅場センター長をお迎えして、現場でのご指導やご講演をいただきました。この研究会を通じて、多自然川づくりが今後もより一層推進されることが期待されます。

多自然川づくりとは？...

河川が本来有している生物の生息環境や、多様な河川景観を保全・創出するために河川管理を行うことです。

◆ 第1部 現場講習会

現場講習会は、平成18年10月に被災した一級河川元町川（葛巻町）等の河川等災害関連事業現場において実施しました。

本事業は、平成17年度に創設された「多自然川づくりアドバイザー制度」を活用し、アドバイザー（九州大学大学院：島谷教授）からご指導いただきながら河道計画を立案しています。

昨年度の工事着手時にはアドバイザー及び菅場センター長をお迎えし、施工業者等を対象として現場指導をいただきました。

今回の講習会では、施工済区間の河道状況について評価を頂き、今後の多自然川づくりについてアドバイスをいただきました。



現場講習会の様子（元町川）

主なアドバイスの内容

- 河床を掘削する場合は基本的に改修前の河川形態を踏襲し、みお筋を保全する。
- 水際には、護岸と水が直接接しないようにする。護岸と水が直接接すると水際が直線的となり、構造物の印象が強まってしまう。護岸前面に土砂を寄せ「テラス」を設けることで、草が生え、護岸が目立たなくなる。水際の生物の生息環境としても良い。また、流速を抑えることができるため、災害の防止につながる。
- 巨石を残すことにより、粗度が上がり、流速が落ちるため、土砂供給の上下流バランスが保たれ、管理上有利となる。
- 山付けとなる箇所は河川環境のポテンシャル（潜在的な価値等）が高いので、無理に管理用通路を設けないようにする。

- 護岸の色彩を考えるときは、背後地の状況を見て、「川の青」～「背後地の色」までのグラデーションを考える必要がある。



写真：一級河川元町川河川等災害関連事業現場

◆ 第2部 多自然川づくり事例発表会

県内で実施している河川事業について事例発表会を開催しました。多自然川づくりなどの自然環境に配慮したもののほか、維持管理に関するものや、これから実施を予定している箇所の計画内容に関するものなど多岐にわたる分野の発表があり、また、多自然川づくり現場施行報告として、元町川災害関連工事施工業者の方から、体験談や苦労話などを発表していただきました。

◎発表論題

NO.	論 題 名	発 表 者
1	長内川の美化活動	久慈地方振興局土木部 主任 佐藤 文範
2	一級河川諸葛川水辺環境再生事業	盛岡地方振興局土木部 主任 藤島 謙
3	元町川における多自然川づくりの取り組みについて	盛岡地方振興局土木部岩手出張所 主任 柴田 秀則
4	一級河川砂鉄川河川激甚災害対策特別緊急事業における多自然川づくりの紹介	一関総合支局土木部千厩土木センター 技師 小野寺 正敏
5	毒沢川の自然環境と多自然川づくりについて	県土整備部河川課 技師 一戸 康弘
体験 報告	【多自然川づくり現場施工報告】 ～元町川の多自然川づくりを体験して～	梨子建設株式会社 工事課長 添田 登



事例発表会の様子



施工業者による体験談

今回発表された5つの論題の中から、『一級河川諸葛川水辺環境再生事業』（盛岡土木/藤島主任）と、『元町川における多自然川づくりの取り組みについて』（岩手出張所/柴田主任）を東北ブロック大会への発表事例として選出しました。

東北ブロック大会は平成20年10月21日に福島市で開催され、全20題の中から、**諸葛川の事例が最優秀賞、元町川の事例が優秀賞**を受賞しました。

なお、平成20年12月11日に東京都で開催される全国大会へは、「多自然川づくりアドバイザー制度」を活用した事例として、元町川の事例が選出されました。

◆ 第2部 多自然川づくり事例発表会

県内で実施している河川事業について事例発表会を開催しました。多自然川づくりなどの自然環境に配慮したもののほか、維持管理に関するものや、これから実施を予定している箇所の計画内容に関するものなど多岐にわたる分野の発表があり、また、多自然川づくり現場施行報告として、元町川災害関連工事施工業者の方から、体験談や苦労話などを発表していただきました。

◎発表論題

NO.	論 題 名	発 表 者
1	長内川の美化活動	久慈地方振興局土木部 主任 佐藤 文範
2	一級河川諸葛川水辺環境再生事業	盛岡地方振興局土木部 主任 藤島 謙
3	元町川における多自然川づくりの取り組みについて	盛岡地方振興局土木部岩手出張所 主任 柴田 秀則
4	一級河川砂鉄川河川激甚災害対策特別緊急事業における多自然川づくりの紹介	一関総合支局土木部千厩土木センター 技師 小野寺 正敏
5	毒沢川の自然環境と多自然川づくりについて	県土整備部河川課 技師 一戸 康弘
体験 報告	【多自然川づくり現場施工報告】 ～元町川の多自然川づくりを体験して～	梨子建設株式会社 工事課長 添田 登



事例発表会の様子



施工業者による体験談

今回発表された5つの論題の中から、『一級河川諸葛川水辺環境再生事業』（盛岡土木/藤島主任）と、『元町川における多自然川づくりの取り組みについて』（岩手出張所/柴田主任）を東北ブロック大会への発表事例として選出しました。

東北ブロック大会は平成20年10月21日に福島市で開催され、全20題の中から、**諸葛川の事例が最優秀賞、元町川の事例が優秀賞**を受賞しました。

なお、平成20年12月11日に東京都で開催される全国大会へは、「多自然川づくりアドバイザー制度」を活用した事例として、元町川の事例が選出されました。